

平成 31 年度入学式式辞

穎明館中学校の新生の皆さん、ご入学おめでとうございます。校長の橋本です。私もこの 4 月から校長に就任した、皆さんと一緒にの新米校長です。一緒に頑張っていきましょう。保護者の皆様、よろしくお願い致します。

今日は、学園本部から理事長の堀越正道先生、副理事長の堀越由美子先生を迎え、このように盛大に入学式を挙げることを誠にうれしく思います。緑豊かで、環境に恵まれた穎明館、咲き誇る桜並木も皆さんの入学をお祝いしているかのように。このよき門出の日に、これからの中学高校 6 年間の学校生活を送る穎明館 38 期生の皆さんに、まずは穎明館教育の 3 つの指針についてのお話をします。

穎明館はよく EMK とも言われます。EMK はどういう意味であるか、わかりますか？これは E (Experience 経験) と M (Morality 道徳) と K (Knowledge 知識) という教育の 3 指針を示しています。

まず E (Experience)、経験について、皆さんは穎明館での 6 年間に多くの経験をする事ができます。まずは毎日の授業、これは日々の経験です。それから学校行事、宿泊学習だけでも中学 1 年で菅平、中学 2 年で広島、中学 3 年で奈良京都、そして高校 1 年ではアメリカ・カナダへ全員で行きます。グローバルの時代、希望すれば、イギリスイートン校でのサマースクールやオーストラリアへのターム留学のチャンスもあります。楽しみです。また文化祭、体育祭、そしてクラブ活動等、これらはすべて生徒たちが自主的に、進んで運営・実行されてきています。よき伝統です。どうか皆さんも先輩方を見習って、授業、学校行事、クラブ活動などに積極的に取り組み、豊かなよい経験を数多く積んでください。経験は皆さんを成長させます。また、時には失敗することもあるでしょう。でも、失敗経験を含めての経験です。失敗からも大いに学んでください。学校は、穎明館は、安心して失敗できる場所です。チャレンジしての失敗ならば、先生方はきっと温かく見守ってくれます。

次に M (Morality)、道徳、人として踏み行うべき道ですが、私は皆さんにとくに「優しさと思いやり」を求めたいと思います。穎明館の教育目標は、社会のリーダーを育てることですが、優しさや思いやりをもつことは、リーダーの資質

の一つです。また、社会がどんなに変化しようとも、優しさや思いやりは人間の美德であり続けます。優しさの語源は、「瘦す」(痩せている)にあると言います。皆さんは、他の人のことで食べられないほど心配した経験、身が細るような思いをしたことはありますか？家族や大切な人が病気になった時など、きっとそんな思いをしたことがある人もいますよね。思いやりは、「一方から他方に思いを遣る、心を配る」ということです。想像力が必要です。人の痛みに敏感で、他人を思いやることのできる、優しい人であってほしい。いじめというのは、優しさや思いやりから一番遠いところにあります。穎明館ではいじめを許しません。ともに6年間学ぶ仲間として、優しさ、思いやりをもって、お互いに尊重しあってほしいと思います。

さらに K (Knowledge)、知識、かつて16世紀イギリスの思想家F.ベーコンは「知は力なり」と言いました。近代の知識はまさに力となり、人間に自然支配の力を与え、文明社会も進歩してきました。21世紀の現在、環境問題をはじめとして、その反省はあるにしても、知が力であることは確かなことです。AI、人工知能の発達などで、これからの社会は大きく変化していくことでしょう。皆さんは、社会の変化に柔軟に対応するためにも、多くの知識・技能を身につけ、思考力や判断力、表現力を磨き、何事にも主体的に取り組む姿勢を築く、そんな中学高校時代を過ごしてほしいと思います。穎明館の授業は知の宝庫です。先生方が、知の世界に誘ってくれます。ぜひ様々な豊かな知の世界を楽しんでほしいと思います。

経験、道徳、知識、このEMKの教育の3指針を心に留めておいてください。

さて、ここで私の好きな言葉を一つ、紹介します。「克己」という言葉です。漢字で書けますか？こういう字です(紹介)。穎明館の創立者、堀越克明先生の「克」の字も使われています。私立学校は建学の精神と言って、学校を創った先生の思いが原点です。穎明館の原点や創立者、堀越克明先生については、「キャリア教育」という時間に、またしっかりと勉強します。話を戻しますが、「克己」について井上靖という作家が、とあるエッセイでこう書いています。

「克己という言葉を知っているか。克己とは自分に克つことだ。非常に難しいが、人間が他の動物と違うところは、誘惑や欲望に打ち克つことができるという点だ。勉強するのも克己、仕事をするのも克己、みな克己だ」。

思うに人生は、己との、自分自身との闘いです。皆さんは今まで、自分で決めたことをきちんと守ってきましたか。中学受験の受験勉強の時はどうでしたか。勉強を投げ出したことはありませんでしたか。こう言っている私も、正直なところ、今までの人生で、自分で決めたことを守れずに、自分の弱さを実感したことが何度もあります。それでも今度こそはと、弱い自分を克服したいと思って、自分自身と向き合って生きてきました。新入生の皆さんも、これから時に、「面倒だな」とか、「もういいか」、とあきらめの気もちが湧いてきた時、「克己」の一語を思い出してください。穎明館の創立者、堀越克明先生の名前とともに、「克己」を胸に刻んでほしいと思います。

結びにもう一つ、私事にもなりますが、私の父は公立中学校の教員で、校長職も務めておりました。今からちょうど10年前に病気で他界しましたが、この礼服、モーニングは父親のものです。父もこうして式辞を述べていたのかな、と思い、同じ、このおさがりの礼服に、こうして袖を通して見て、改めて父親との命のつながりを実感しています。新入生の皆さん、命のつながり、わかりますか。皆さんに親がいて、おじいさん・おばあさん、そのまた前からの脈々とした命のつながり……皆さんの命は皆さんだけのものではありません。どうか、命を大切にしてください。また、自分の命に込められた思いや願いを考えながら、感謝の気持ちをもって、一所懸命、命を輝かせるような毎日を送る努力をしてほしいと思います。

「EMK」、「克己」、「命を大切に」と話してきました。今日の新しい出会いを喜び、初心を忘れずに、穎明館での学校生活の充実を、お互いに誓いあうことで、私の式辞とさせていただきます。新入生、並びに保護者の皆様、本日は誠にありがとうございます。以上です。